

# 外資金庫法案特別委員會會議事速記錄第三號

## 付託議案

- 外資金庫法案
- 軍需金融等特別措置法案
- 臨時資金調整法中改正法律案
- 戰時金融庫法中改正法律案
- 生命保險中央會法案
- 損害保險中央會法案
- 臺灣銀行法中改正法律案

昭和二十年一月三十一日(水曜日)午  
後二時四十二分開會

○委員長(男爵東郷安者) 開會致シマ  
ス、昨日ノ審議ニ續キマシテ、御質問  
ヲ願ヒタイト存ジマス、最初ニ大藏次  
官ヨリ通告ガゴザイマスカラ發言ヲ許  
シマス

○政府委員(小笠原三九郎君) 速記ヲ  
御止メ願ヒマス

○委員長(男爵東郷安者) 速記中止  
〔速記中止〕

○委員長(男爵東郷安者) 速記開始  
○子爵安戸功男君 尙從來此ノ種ノ取  
扱法ハドウシテ居ツタカ、今度此ノ法  
案ガ通ツタナラバドウスルト云フ、其  
ノ狙ヒトスル所點ヲモウ少シ掘リ下ゲ  
テ、速記ヲ止メテ結構デアリマスカラ、  
説明ヲシテ戴キタイト思ヒマス

○委員長(男爵東郷安者) 速記中止  
午後二時五十五分速記中止

午後三時三十分速記開始

○委員長(男爵東郷安者) 外資金庫法  
案ニ付テ、御質問ガナイト認メテ宜シ  
ウゴザイマスカ

○子爵松平親義君 チョット一言伺ヒ  
タイト思ヒマス、此ノ法案ノ提出文ニ

内務大臣ガ入ツテ居リマスガ、是ハド  
ウ云フ關係デゴザイマスカ

○國務大臣(石渡莊太郎君) 内務大臣  
ノ入ツテ居リマスノハ、此ノ金庫ニ地  
方稅ヲ課シナイ、其ノ地方稅ノ所管廳  
ガ内務省デアリマスカラ、此ノ法律案  
ヲ提出致シマスルニ付テ請議大臣ノ一  
人トシテ入ツテ居ル譯デゴザイマス

○有賀光豐君 此ノ外資金庫ニ直接テ  
ハアリマセヌガ、稍、關聯致シテ居リ  
マスノデ、大藏大臣ニ御尋ネ致シタイ  
ト思ヒマス、支那ノ「インフレ」ニ處シ  
マシテ、又日本ガ支那テ戰爭資材ヲ調  
辨スルト云フヤウナ、色々ノ觀點カラ  
見マシテモ、要スルニ紙幣ノ操作ヲシ  
テ居ルヤウニ思フノデアリマス、之ニ付  
キマシテ私共適切ニ考(ル)ノハ、日本  
ガ金ヲ保有スルト云フ此ノ一點デアリ  
マス、我が國ハ先年來金ノ増産ニ非常  
ナ獎勵ヲシ、又民間ノ金ヲ皆熱心ニ回  
收サレタノデアリマス、又産金業者モ  
其ノ政府ノ方針ニ應ジマシテ、非常ナ  
熱心ヲ以テ産金ノ事業ニ從事シテ居ツ  
タノデアリマス、然ルニ政府ハ突如ト  
シテ此ノ産金事業ヲ全部廢止サレタノ  
デアリマス、同時ニ又、日本ノ紙幣ト  
云フモノハ金カラ離脱ヲシタト云フコ  
トニナツタノデアリマスルガ、今此ノ  
支那ノ經濟ニ對應スル一點カラ考ヘマ  
シテモ、金ノ幾「トン」カ日本デ年々生  
シタナラバ、非常ナ力強イモノヲ感ズ  
ルノデアリマス、ソレデ結局、何時カ  
ハ日本ハ又金ノ保有ト云フコトニ熱中  
セヌケレバナラヌ時期ガ來ハセヌカト  
思フ、來ハセヌカデハナイ、モウ今日、

只今其ノ時期ニ來テ居ルノデアアル、デ  
政府ハ矢張り、何時迄モ金ト云フモノ  
ハ必要ハナイト云フト語弊ガアリマスガ、  
今ノヤウナ手心政策ヲ何時迄モ御執リ  
ニナルノデアリマスカドウカ、再ビ金  
ノ生産ト云フモノヲ熱心ニ研究サレル  
時期ガアリマスカドウカ、或ハ又金山  
ノ中デモ良不良ガアリマスカラ、最モ  
優秀ナル金山ハボツ／＼之ヲ開發セシ  
ムルト云フ御方針ヲ執ラレルノデアリ  
マスカドウカ、金ト云フモノガドウシ  
テモ無クテハ、支那初メ南方ニ對シテ  
ニ不可能デヤナイカト考ヘマス、就キ  
マシテ大藏大臣或ハ政府一般ノ御方針  
ト致シマシテ、日本ノ金ニ對スル御政  
策ヲ此ノ機會ニ伺フコトガ出來マスナ  
ラバ、非常ニ仕合セデアリマス

○國務大臣(石渡莊太郎君) 金カラ離  
脱致シタ方ガ先デアツテ、産金ノ獎勵  
ヲ止メタノハ後ダト思ツテ居リマス、  
産金ヲ止メマシタノモ、別ニ産金ガ不  
要ダカラト云ツテ止メタ譯デアリマス  
セヌ、産金ニ使ツテ居ル所ノ資材勞務  
ト云フモノヲ、此ノ時局下ニ於テ更ニ  
必要ナル資材ノ發掘ニ充テヨウト云フ  
コトデ、産金ヲ止メタノデス、即チ鐵  
デアルトカ、石炭デアルトカ或ハ礬土  
頁岩デアルトカ、左様ナ時局下更ニ必  
要ナル方面ニ、其ノ資材勞務ヲ用ヒム  
ガ爲ニ、私ハ産金ヲ整理致シタノデア  
ルト思フノデアリマスガ、今日ニ於  
キマシテモ、御存ジノ通り金ト云フモ  
ノハ、外ノ重要礦物ト同時ニ產出致サ  
レル部分モ少クナイノデアリマス、外

ノ軍需資材ニ必要ナ礦物ノ產出ニ伴ツ  
テ出テ居ル金ハ、大藏省ニ於テ之ヲ受入  
レテ居ルノデアリマシテ、毎年少カラ  
ザル金ガ實ハ入ツテ來テ居リマス、從  
來ノ産金獎勵ヲ致シテ居リマシタ時分  
程ハ、勿論入ツテ來テ居リマセヌガ、  
一箇年ニ少カラザル金ノ產出ヲ見テ居  
ルノデアリマスガ、私ハ今日ノ狀況ニ  
於テ石炭ヤ鐵 銅等ノ山カラ、人ナリ資  
材ヲ金ニ廻シテクレト云フコトヲ要求  
スル譯ニハ行カヌト思ツテ居リマス、  
併シナガラ左様ナ所カラ廻シテ來ナク  
トモ、現ニ發掘シ得ル所デ、左様ナ方  
面ノ重要礦物ニ妨ゲノナイ方面ニ於  
テ採掘サレル金ガアルナラバ、私ハソ  
レハ喜ンデ獎勵ヲ致シテ居ル次第デア  
リマス、現ニ左様ナ金モ今年ニ於テ相  
當大藏省ニ入ツテ來ルカト思ツテ居ル  
ノデアリマス、孰レニ致シテモ、金ト  
云フモノハ不要ノモノトモ考ヘテ居リ  
マセヌガ、今日ハ金ヨリモツト必要ナ  
色々ナ礦物ガ發掘ヲ希望致サレテ居ル  
ノデアリマス、時勢ガ變リマシテ金  
ノ產出ヲ更ニ熱望致ス時期ガアルカド  
ウカト云フコトハ、是ハ將來ノ問題デ  
アリマスカラ、今日ハツキリ申上ゲ兼  
ネルノデアリマス、更ニ今一ツ御參考  
ニ由上ゲテ置キタイコトハ、我が國ニ  
於キマシテ御想像以上ノ金ヲ現ニ保有  
致シテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ  
私ハ餘リ今日外ノ礦物ノ採掘ヲ中止シ  
テ迄、金ヲ掘ツテ呉レト云フコトヲ要  
求致シテ居ラヌ次第デアリマス、ドウ  
ゾ様御了承ヲ願ヒタイト存ジマス

○委員長(男爵東郷安者) 最早御質疑

ハゴザイマセヌカ、御質疑ナイモノト  
認メマス、是ヨリ討論ニ移リマス、別  
ニ御意見モゴザイマセヌケレバ、直ニ  
採決ニ入りタイト思ヒマス、本案ニ付  
キマシテ可決シテ宜シウゴザイマスカ  
如何デゴザイマセウ、別段御異議ガナ  
ケレバ、全員一致可決ト致シテ宜シウ  
ゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○委員長(男爵東郷安者) 御異議ナイ  
ト認メマス、ソレデハ本案ハ可決致シ  
マス、速記ヲ止メテ

〔速記中止〕

○委員長(男爵東郷安者) 速記開始

○國務大臣(石渡莊太郎君) 本委員會  
ニ付託ト相成リマシタ軍需金融等特別  
措置法案外五件ノ法律案ニ付テ説明致  
シマス、先ツ軍需金融等特別措置法案  
ニ付テ説明致シマス、戰力増強ノ要請  
ニ應ジマスル爲、昨年初頭以來軍需會  
社ノ指定ニ伴ヒマシテ、所謂軍需融資  
指定金融機關制度ヲ設ケマシテ、各軍  
需會社ニ付テ所要資金ノ融通ヲ擔當ス  
ベキ金融機關ヲ指定シ、右金融機關ヲ  
シテ擔當軍需會社ノ所要ニ應ジ、軍需  
事業資金ノ簡易迅速且適切ナル供給ヲ  
圖ラシムルコトヲ致シタノデアリマス  
ガ、本制度ハ指定金融機關ト軍需會社  
ノ相互協力ニ依リ、産業ト金融トノ緊  
密化ヲ促進スルニ多大ノ效果ガアツタ  
ラ憲、苛烈トナル戰局ニ對處スルガ爲  
ニハ、右軍需融資指定金融機關制度ヲ  
法的ニ明確ナラシメ且之ヲ強化シ、軍  
需會社以外ノモノニ對スル資金ノ融通

第四部第六類 外資金庫法案特別委員會會議事速記錄第三號 昭和二十年一月三十一日 貴族院

ニ付テモ、此ノ方式ヲ採用スル等、軍需金融ノ他ノ金融ノ圓滑適正化ヲ圖ルト共ニ、資金ノ效率ノ使用ヲ促進スル等ノ必要ガアルノデアリマシテ、茲ニ軍需金融等特別措置法案ヲ提出シテ、次第デアリマス、本法案ノ主ナル點ハ、第一ハ軍需會社其ノ他命令ヲ以テ定ムル專業者ニ對スル資金ノ融通ハ、政府ノ指定スル金融機關ヲシテ擔當セシメルコトト致シタノデアリマス、政府ノ指定ヲ受ケマシタ軍需金融機關ハ、擔當專業者ニ對シマシテ、其ノ專業ノ適實ナル遂行ニ必要ナル資金ヲ簡易迅速ニ、且資金ノ使用ヲ效率的ナラシムル配意ノ下ニ融通スルコトヲ要スルノデアリマシテ、軍需金融機關ノ役員ハ、政府ニ對シ其ノ任務ヲ圓滑ニ遂行スルノ責任ヲ有スルノデアリマス、而シテ政府ニ於キマシテハ、軍需金融機關ニ對シテ各擔當專業者ニ對シ資金ノ融通ヲ爲シ得ベキ限度ヲ指定シ得ルコトト致シ、又必要ニ應ジ金融機關ノ專業者ヨリノ預金等ノ受入ヲ制限又ハ禁止シ、之ヲ其ノ擔當軍需金融機關ニ集中シ得ルコトト致シタノデアリマス、第二ニハ軍需金融機關ガ擔當專業者ヨリ申込ヲ受ケタル資金ヲ融通シ難シト認メル場合ニ於キマシテハ、遲滞ナク理由ヲ具シ其ノ旨ヲ政府ニ申出ヅルコトヲ要スルノデアリマシテ、此ノ申出アリタル場合ハ、政府ハ當該資金ニ付必要ナル措置ヲ講ズルノデアリマス、更ニ軍需金融機關ハ擔當專業者トノ連絡ニ當ラシムル爲、擔當專業者毎ニ軍需金融擔當者ヲ選任スルコトヲ要スルコトト致シマシタ、第三ニハ、軍需金融機關ハ擔當專業者ヨリ委託アルトキハ其ノ賣買代金、前受金、前渡金等ノ代理受押事務ヲ取扱フコトヲ要シ、又政

府ニ於テハ必要ニ應ジ專業者ニ對シテ是等ノ事務ヲ擔當軍需金融機關ニ委託スベキコトヲ命ジ得ルコトト致シタコトデアリマス、尙軍需金融機關ヲシテ其ノ任務ヲ圓滑ニ遂行セシムル爲必要ナル場合ニハ、政府ハ店舗ノ設置、定款ノ變更等必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得ルコトト致シタノデアリマス、第四ニハ、以上ノ如キ軍需金融機關ノ國家的任務ニ關シ、軍需金融機關ノ役員、軍需金融擔當者、其ノ他專業者ニ對スル資金金融通ニ關スル事務ニ從事スル者ヲ公務員ト見做スコトト致シタノデアリマス、第五ニハ、軍需金融機關ヲシテ特別ノ積立金ヲ設ケシムルコトトシタコトデアリマス、即チ政府ハ必要アリト認メマスルトキハ、軍需金融機關ヲシテ其ノ擔當專業者ニ對スル資金ノ融通ニ因ル收入金ノ一部ヲ以テ、一定ノ標準ニ依リ特別ノ積立金ヲ積立テシムルコトト致シタノデアリマス、此ノ特別ノ積立金ハ政府ノ許可ヲ受ケ損失ノ填補等ニ使用シ得ルノデアリマスガ、尙殘額アリトキハ大東亞戰爭終了後別ニ法律ヲ以テ定ムル所ニ依リ一部ヲ政府ニ納付スベキコトヲ命ジ得ルコトト致シマシタ、第六ニハ、全金融機關ノ同業一體、協力一致ノ態勢ヲ更ニ一層強化スルコトト致シタコトデアリマス、即チ政府ハ必要ニ應ジ金融機關ニ對シ軍需金融機關ニ對シ協力セシムル爲必要ナル命令ヲ爲シ得ルコトト致シタノデアリマス、第七ニハ、金融事務ノ簡素化等ヲ圖ル爲、特定ノ金融機關ノ財團抵當權ノ登記ニ際シ、財團目録ノ調製ニ付簡素ナル方法ヲ採リ得ルコトトシ、又營業ノ讓渡、預金契約ノ變更等ノ場合ノ債權者等ニ對スル通知ヲ簡易化シ、又株主總會ノ招集及ビ決議、業務ノ制限、取

締等ニ付テ他ノ法律ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定メ爲シ得ルコトト致シタコトデアリマス、第八ニハ、資金及ビ經理ニ關スル検査ニ當リ軍需金融機關等ノ職員ノ技能ヲ活用シ得ルコトト致シタコトデアリマス、即チ政府ハ必要アリト認メマスル時ハ日本銀行、軍需金融機關又ハ金融統制團體ノ職員ヲ政府ノ補助機關トシ、臨時資金調整法、軍需會社法其ノ他ノ法律ニ依リ資金及ビ經理ニ關スル検査ニ關スル事務ニ從事セシムルコトトシ、當該事務ニ從事スル職員ハ罰則ノ適用ニ付テハ、之ヲ當該官吏ト看做スコトト致シマシタ、第九ニハ、本法又ハ之ニ基キテ爲ス命令若シクハ處分ノ效果ノ確保上支障アリト認ムル時ハ、政府ハ金融機關ノ役員ヲ解任シ得ルコトト致シタコトデアリマス、次ニ臨時資金調整法中改正法律案ニ付說明致シマス、改正ノ第一ハ、本法ニ依リ興業債券ノ發行限度ヲ五十億圓ヨリ百億圓ニ擴張セムトスルコトデアリマス、現在興行債券ノ發行限度額ハ日本興業銀行法ニ依リ發行限度額五十億圓ヲ加ヘマスルト、合計五十八億七千五百萬圓デアリマスガ、最近ニ於ケル日本興業銀行ノ資金需要ハ益々増加シ、同行ニ於ケル貸出金ハ昨年中ノミニテモ三十六億九千餘萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、之ガ所要資金ハ地方銀行、貯蓄銀行等ヨリ借入金ノ外、興業債券ノ發行ニ依リ調達シテ參ツタノデアリマス、而シテ昨年未ニ於ケル同債券ノ發行高ハ五十七億圓ニ達シ、之ガ發行餘力ハ一億六千餘萬圓ヲ餘スニ過ギナイコト相成ツタノデアリマス、而モ今後軍需産業資金等ノ需要ハ一層増大スルモノト思

ハレマスルノデ、茲ニ本法ニ依リ發行限度ヲ五十億圓ヨリ百億圓ニ擴張シ、之ガ所要資金ノ調達ニ支障ナカラシメムトスルモノデアリマス、次ニ改正ノ第二ハ日本勸業銀行ノ定期預金及公金預金以外ノ預金ニ關スル限度ヲ撤廢セムトスルコトデアリマス、日本勸業銀行ノ此ノ種ノ預金ノ總額ハ、現在日本勸業銀行法中ニ拂込資本金額及積立金總高ヲ超過スルコトヲ得ザル旨ノ規定ガアルノデアリマスガ、此ノヤウナ規定ハ同行ガ貯蓄ノ増進ニ邁進致シツ、アル今日、甚ダ不適當ト存ズルノデアリマシテ、之ヲ撤廢致シタイト存ズルノデアリマス、改正ノ第三ハ割増金附證券ノ發行ヲ技術的ニ容易ナラシムル爲、商法ノ社債ニ關スル規定ノ特別ヲ設ケムトスルモノデアリマス、改正ノ第四ハ、政府ハ資金ノ吸收ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ、其ノ賣却代金ノ一部ヲ抽籤ヲ以テ返還シ、元金ヲ返還セザル證券ノ賣却實施セムトスルモノデアリマス、從來政府ハ國民貯蓄増進方策ノ一トシテ貯蓄債券、報國債券及福券ノ如キ割増金附證券ノ發行ヲ實施致シテ參リマシタガ、是等ノ制度ハ總テ購買者ニ於テ元金ヲ喪失セズ、専ラ利子ノ範圍内ニ於テ割増金ヲ取得スルコトヲ得ルモノデアリマスガ、今回は等ノ制度ヲ一歩前進セシメ、元金ヲ償還セザル所謂富籤ニ該當スル證券ノ賣却實施シ得ルコトト致シタノデアリマス、而シテ本證券ノ賣却ハ、特定ノ法人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトトシ、其ノ收益ハ擧ゲテ之ヲ政府ニ納付セシムルコトト致スノデアリマス、又其ノ券面金額、最高當籤金ノ金額、當籤率其ノ他ノ具體的發行條件等ニ付キマシテハ、今回特ニ

資金吸收特別方策委員會ヲ設ケ、同委員會ニ於テ十分調査審議致シタ上決定ヲスルコトト致シタイト存ジテ居ルノデアリマス、改正ノ第五ハ、國民貯蓄増進策ノ圓滑ナク實施ヲ圖ル爲、都道府縣及市町村ニ國民貯蓄運營業委員會ヲ設ケムトスルコトデアリマス、國民貯蓄増進策ハ從來ヨリ行ヒ來リマシタ地域或ハ職域等ヲ通ズル所謂割増貯蓄ヲ初メトシテ、其ノ他各種ノ施策モ悉ク其ノ性質上、國民ノ多種多様ナル個別的事情ニ即シテ、出來得ル限り圓滑ニ之ヲ實施スルコトヲ必要ト致シマスノデ、斯カル機關ヲ設ケ、此ノ委員會ニ種々協力ヲ致サシメタイト思ツテ居ル次第デアリマス、改正ノ第六ハ割増金附證券、割増金附預金、其ノ他ノ貯蓄ノ割増金等ノ支拂ヲ國債證券其ノ他ノ有價證券ヲ以テスル場合ニ於テ、其ノ有價證券ノ移轉ニ對シ有價證券移轉稅ヲ課セザルコトト致シタイト思フノデアリマス、次ニ戰時金融庫法中改正法律案ニ付說明致シマス、昭和十七年戰時金融庫ノ設立以來、同金融庫ニ於テハ生産擴充ノ爲必要ナル資金ノ供給ヲ爲シ、又有價證券ノ市價安定ヲ圖ツテ參リ、其ノ貸付額ハ二十二億九千餘萬圓、有價證券所有額ハ八億三千餘萬圓ニ達シテ居ルノデアリマシテ、之ガ所要資金ハ其ノ資本金三億圓ニ依リノ外ハ、今日迄戰時金融債券二十四億八千餘圓ヲ發行シテ調達シテ參ツタノデアリマス、然ルニ同金融庫ニ於テ今般緊要産業等ニ對シ資金ノ供給ヲ爲シ、又有價證券ノ市價安定ヲ圖ル必要ガアルノデアリマス、之ガ所要資金ハ相當多額ニ上ルモノト豫想致サレ、之ヲ戰時金融債券ヲ發行シテ調達スル必要ガアルノデアリマス

ガ、同金庫ノ戰時金融債券發行餘力ハ現在五億一千餘萬圓ヲ殘スノミトナツテ居リマスノデ、今般是ガ發行能力ヲ拂込資本金額ノ十倍、即チ三十億圓ヨリ三十倍即チ九十億圓ニ擴張スルコトトシ、茲ニ本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ生命保險中央會法案ニ付說明致シマス、支那籌變勃發ト共ニ生命保險會社ニ於キマシテハ舊來ノ約款ノ規定ノ如何ニ拘ラズ、戰爭ニ因ル死亡ニ對シ保險金ヲ完全ニ支拂フベキ旨ノ申合ヲ行ヒ、大東亞戰爭勃發後モ引續キ之ガ實行ヲ圖ツテ參リマシタ外特ニ新規契約ニ付キマシテハ、昭和十八年二月、各會社ノ申合ニ基キ約款ヲ統一シテ戰爭其ノ他ノ變亂ニ因ル死亡ニ對シテモ、原則トシテ保險金支拂ノ責ニ任ズルモノトシ、以テ戰時下國民生活ノ安定確保ニ寄與ヲ爲シ來ツタデアリマス、併シナガラ民營生命保險事業ノ計算ノ要素ニハ戰爭危險ハ何等加味致サレテ居ラナイノデアリマシテ、戰局ノ進展ニ伴ヒ、戰爭死亡ニ對スル保險金ノ支拂ガ、今後更ニ増加致シマスル場合ニ於テハ、保險事業ノ基礎ヲ薄弱ナラシメ、國家大局ヨリ見テ適當ナラズト認メラレルノデアリマス、即チ政府ニ於キマシテハ、今回殆ド全額ヲ政府出資ト致シマシテ、新タニ生命保險事業主體タル生命保險中央會ヲ設立シ、之ヲシテ生命保險ニ對スル戰爭危險ノ再保險ノ引受ヲ行ハシメ、以テ戰爭ニ因ル死亡ニ對スル生命保險會社ノ保險金ノ支拂ヲ確保セムトスルモノデアリマス、次ニ損害保險中央會法案ニ付說明致シマス、損害保險事業ニ於キマシテハ、今次歐洲大戰勃發ト共ニ民間ニ於テ各保險會社ノ出資ニ依リ、東亞火災海上再保險株式會社ヲ組織

シ、之ニ依リ陸上海上ノ普通損害保險ノ再保險ヲ行ツテ參リマシタ外、政府ニ於キマシテハ損害保險國營再保險法、戰爭保險臨時措置法、戰時特殊損害保險法ヲ制定シ、空襲等ノ戰爭事故、地震被害等ニ對シ、物的戰力ヲ保護スル爲メ損害保險制度ヲ整備強化シテ參ツタデアリマス、然ルニ其ノ再保險制度ニ付キマシテハ、從來ノ機構ヲ以テシテハ今尙十分トハ申シ難イノデアリマシテ、政府民間兩者ノ間ニ再保險手續ノ重複スルモノアル等、其ノ運營上適當ナラザル點少カラザルモノガアルノデアリマス、茲ニ於キマシテ政府ハ今回新タニ全額ヲ政府出資トスル損害保險中央會ヲ設立シ、陸上海上ノ普通事故並ニ戰爭事故ニ對スル保險制度ノ運營ヲ全面的ニ同會ヲシテ取扱ハシメ、損害保險ノ再保險機構ヲ整備スルト共ニ、損害保險制度ノ圓滑ナル運營ニ資センメムトスルモノデアリマス、次ニ臺灣銀行法中改正法律案ニ付說明致シマス、臺灣銀行ハ臺灣ニ於ケル中央發券銀行トシテ銀行券ノ發行ヲ爲シ得ル權能ヲ賦與セラレテ居ルノデアリマス、現行法上ノ其ノ種類ニ付キマシテハ、券面金額一圓以上ノモノニ限ラレテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ハ現下ノ戰局ニ對處シ、急速ナル戰力増強ニ資スル爲メ、硬貨ノ回收ヲ更ニ一層促進シ、臺灣ニ流通シテ居リマスル補助貨ヲモ回收スルヲ適當ト認メマスノデ、此ノ際臺灣ニ於テモ硬貨ニ代ルベキ補助貨トシテ、内地同様券面金額一圓未満ノ小額銀行券ヲ印刷ノ上、臺灣銀行券トシテ之ヲ發行シ得ル權能ヲ與フル必要ガアルノデアリマス、次ニ臺灣銀行券ノ種類及様式ニ付キマシテハ大藏大臣ノ命令ニ依リマシテ、從來トモ同行ハ其

ノ都度政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定メテツ參タノデアリマスガ、之ヲ成文化スルヲ適當ト認メ本法案ヲ提出シタノデアリマス、以上六件ノ法律案ニ付キマシテハ何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○委員長(男爵東郷安君) 本日ハ此ノ程度ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時カラ開會致シマス、審議ノ順序ハ今日上程ニナリマシタ此ノ順序ヲ致シマスカラ、御質問ノ通告、其ノ他ゴザイマシタラ、豫メ御申出ヲ願ヒマス

午後四時七分散會

出席者左ノ如シ

委員長 男爵東郷 安君  
副委員長 子爵裏松 友光君  
委員

侯爵德川 頼貞君  
侯爵中山 輔親君  
侯爵西郷吉之助君  
伯爵柳澤 保承君  
子爵穴戸 功男君  
子爵大岡 忠綱君  
子爵松平 親義君  
子爵水野 勝邦君  
有吉 忠一君  
坂西利八郎君  
男爵高木 喜寬君  
松本 丞治君  
河田 烈君  
男爵宮原 旭君  
有賀 光豐君  
瀧 正雄君  
竹下 豐次君  
磯貝 浩君  
中島德太郎君  
古莊健次郎君  
柴田兵一郎君

國務大臣 石渡莊太郎君

大藏大臣 小笠原三九郎君

政府委員 大藏政務次官 山際 正道君  
大藏省總務局長 氏家 武君  
大藏省國民貯蓄局長 久保 文藏君  
大藏省外資局長 吉村 成一君  
大藏書記官 同 福田 赳夫君

大東亞次官 竹内 新平君

説明員

昭和二十年二月三日印刷

昭和二十年二月三日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局